

【様式】

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物事に対する情熱をもち、長い時間、継続的に粘り強く努力することによって、物事を最後までやり遂げる思考態度を身に付ける。</li> <li>・計画、探究、行動、振り返りといった連続性のある学びの中であらゆる経験を自らの成長につなげるため、主体的に学び続ける思考態度を身に付ける。</li> <li>・よりよい世界を構築するために、年齢や性格、価値観などの多様性を受け入れ、地球にいる一人の人間として、貢献・活躍しようとする思考態度を身に付ける。</li> </ul>
目指す学校像	大宮国際中等教育学校は、よりよい世界を築くことに貢献する地球人の育成を目指しています。そのため、学校生活のあらゆる機会を通して、未来の学力を備え国際的な視野を持つ生徒の育成を目指します。

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生徒の学びを段階に応じた課題設定と、学びを深めるフィードバックの質の向上</li> <li>2 安心安全な環境づくりの推進と、生徒理解のための徹底した組織対応</li> <li>3 学校周辺地域から始まる積極的な外部との交流</li> <li>4 ICTツールの効果的に活用し、資源の削減や時間の節約など効率的な教育活動の実践</li> <li>5 より効果的な研修の企画立案と、内外で得られた研修内容の共有の推進</li> </ol>
------	---

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価						学校運営協議会による評価	
年度目標					年度評価		実施日令和8年2月28日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1 学びの質の向上に関する取組	○学ぶ目的や長期的な視野を踏まえた課題設定を整理し、いかに効果的に動機づけを高めていくかが課題である。	学ぶ目的や長期的視野を持った課題設定を通じた動機づけの向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の開始時に学習目的と学習プロセスを確認し、動機付けと見通しを持たせることで学習効果を高める。</li> <li>・アンケート実施後、フォーカスグループによる更なる問いかけを行い、学習者の視点を深め、今後の参考とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が自身の探究活動と将来の目標とのつながりを言語化できる生徒の割合が80%以上である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自身の探究活動と将来の目標とのつながりに関するアンケートに対する生徒の肯定的な回答割合は78%であった。生徒自身の将来の目標の達成に必要な資質能力を分析し、探究活動によりそれらが培われていることを明確に表現した回答が多くみられた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンテスト等、具体的な目標を持って探究活動を深めることにより、数学や教養競技の分野で世界大会の舞台で素晴らしい実績をあげる生徒もいた。自身の探究活動と将来の目標について考える時間と機会を確保するため、個人探究だけでなく、SAやクラスやグループでの言動なども含めて丁寧に振り返る時間を設け、学ぶことの本質を模索していく。それと合わせ、テーマ自由度と指針のバランス、教師の専門性を活かした支援体制の見直しを図る。</li> </ul>
	○指導や学びの改善につながる情報は多く存在しているが、十分に活用されておらず、活用するための仕組みも整っていないことが課題である。	生徒の学びを深めるフィードバックの活用と質の見直し	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導や学びの改善につながる情報の整理と効果的な情報共有体制の構築を行う。</li> <li>・フィードバックの質と生徒の相互支援力の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体教科会を活用し、各教科のフィードバックに関する共有を10回以上行う。</li> <li>・フィードバックに関するアンケートに対する教師および生徒の肯定的な回答がそれぞれ80%以上である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体教科会でフィードバックに関する共有及び検討協議を7回行った。</li> <li>・フィードバックに関するアンケートに対する教師および生徒の肯定的な回答割合は教師71%、生徒86%であった。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業担当者間、同教科内、別教科間において、より効果的なフィードバック方法について年間を通して研究協議が行われた。評価項目を精査・合理化し、生徒へのフィードバックを早めることで振り返り効果を高める。また、後期課程の評価基準の見直しを行い、前期課程との親和性の高める調整を行うことで学習の質の向上を図る。</li> </ul>
2 子どもの発達や心のサポートに関する取組	○交通事故、貴重品の紛失、生徒間のトラブルなど、学校安全に関わる諸課題への対応が必要である。	安全な学校の為の対策の徹底	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全に関する授業や講習会を教員や生徒が様々な立場で実施する。</li> <li>・生徒の対人関係に問題が発生した際には、教員間・保護者・外部機関による支援体制を速やかに構築する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全に関する指導(交通安全・防災・対人関係等)を10回以上開催する。</li> <li>・安全に関するアンケートに対する生徒の肯定的な回答が80%以上である。</li> <li>・貴重品紛失・通学中の自転車事故が昨年度よりも減少している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全に関する指導(交通安全・防災・対人関係等)を15回実施した。</li> <li>・安全に関するアンケートに対する生徒の肯定的な回答割合は86.1%であった。</li> <li>・昨年度比で、貴重品紛失は1件で4件減、自転車事故は10件で5件増であった。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめに対する本校の姿勢や、指導の流れなどについて説明し、理解してもらう場を生徒向け・保護者向けともに増やしていく。いじめ認知件数やアンケート結果を分析しその関係性について検証を行う。</li> <li>・安全指導やマナー指導を始め、掲示や集会での呼びかけを継続的に実施することで、安全な学校づくりについて成果が見られた。自転車事故については、集計方法を詳細にしたことによる件数増加である。</li> </ul>
	○生徒は勉強や対人関係、個人的な悩みなど様々な課題を抱えているが、教員の業務過多により生徒理解のための時間を確保することが困難な状況がある。	教師が生徒理解を深めることによる、生徒の心身の発達の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員研修や、担任制の見直しも含めた生徒との関係の改善に向けた議論を行う。</li> <li>・生徒に対する個別面談・面接等を効率的に実施し、生徒理解を図る。</li> <li>・人格に関する授業(LHR・道徳など)の指導を改善・充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体研修を3回以上実施する。(校内・校外の専門家による内容を含む。)</li> <li>・生徒支援に関するアンケートに対して、生徒の肯定的な回答が80%以上である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育相談に関する研修を5回実施した。</li> <li>・生徒支援に関するアンケートに対する生徒の肯定的な回答割合は85.6%であった。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な課題を抱える生徒がおり、対応の長期化や外部専門機関とも連携して対応する必要がある場合もあるため、多くの教員が研修に参加し、生徒支援を円滑に体制作りを継続する。</li> <li>・教師は生徒との個別相談に積極的に対応し、支援した。相談相手を選択できることや、様々な角度から支援できることなど複数担任制の利点を生かし、課題を抱える生徒へ対応する。</li> </ul>
3 地域とともにある学校づくりに関する取組	○生徒の個々の取組について生徒同士や教員、周辺地域住民への情報共有が不十分である。	生徒の活動の集約と継承	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の探究課題、協力関係にある外部機関・関係者といったリソースをデータベースにまとめ、それらを効果的に活用できる仕組みづくりを行う。</li> <li>・他学年のプロジェクトとその際の関わりの見える化を推進する。</li> <li>・教員がボランティアや研修に参加することで外部連携の窓口を広げる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データベースの作成と試行運用、課題改善を繰り返し、令和8年度から本格実装を開始する。</li> <li>・他学年との交流事業を年3回以上実施する。</li> <li>・教員の80%以上がボランティアや研修に参加する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の探究活動と外部連携に関わるデータを集約予定。活用に関する諸課題について引き続き検討する。</li> <li>・他学年との交流事業を12回実施した。</li> <li>・教員の71%がボランティアや研修に参加した。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・探究活動と外部連携について、データベース化とその効果的な活用について分掌、学年、教科など様々な要素を加味して検討する必要がある。検討推進のための組織作りを行う。</li> </ul>
	○自らの興味関心に基づかないような、単なるインターネット検索による安易なテーマ設定による探究活動がある。学校と地域の関係性を高め、生徒が探究活動を行うときに学校周辺にある事柄に積極的に取り組むことが課題である。	生徒の活動の発信と本校に活かさないコミュニケーションづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部の教育力を更に活用するため、本校における外部主催ワークショップを増加させる。</li> <li>・HPやSNSを活用し、学校・生徒の取り組みについて理解と支援を得る。</li> <li>・周辺地域・自治会との交流の活性化を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CA・LDTの地域展開と施設提供を推進し、年20件以上の外部団体利用を促す。</li> <li>・生徒の80%以上が地域ボランティアに参加する。</li> <li>・自治会連携行事を年3回以上実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・LDTで本校を会場に15団体が22件の行事を開催した。</li> <li>・生徒の58.6%がボランティアに参加した。</li> <li>・自治会連携行事として地域子ども会主催の星空観望会では、地元市議や近隣小学校、本校生徒も多数参加し交流した。市、自治会、生徒による避難所設置訓練も実施された。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学教授による専門分野の講演や、金融機関によるマネー講座、地元ロータリークラブによる献血啓発活動など多岐に渡る内容のワークショップが実施された。次年度は更に多様な取り組みを誘致する。</li> <li>・生徒はフードドライブや貧困問題など国際的な社会問題にも関心を持って取組んだ。解決に向けた課題意識の共有のために、活動を積極的に発信する。</li> </ul>
4 教育環境の整備に関する取組	○ICTツールが多様で複雑であり、また管理している情報についてもどのように取り扱うかその都度判断が必要であるため、時間的な損失が発生している。	ICT環境の整備と学習活動への活用の整理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Classiでグループを作らず、生徒との連絡手段はteamsのみで行う。</li> <li>・よりよい一本化されたLMSについての情報収集を行う。</li> <li>・校内の連絡体制の改善を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT活用に関する昨年度比のアンケートに対する教師および生徒の肯定的な回答がそれぞれ80%以上である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度のICT活用に関するアンケートに対する教師および生徒の肯定的な回答割合は教師79%、生徒99%に対し、今年度は教師86%、生徒100%であった。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業や探究活動により日常的にICT機器を活用することで、目的に応じてアプリケーションを選択し、活用できる割合が増加している。生徒は昨年と比べより活用できたとの回答割合が増加した。今後は周辺機器も含めたサポート体制を整え、短時間で反復できる接続練習、教室での配線・設定チェックリストの作成、生徒の相互支援等で課題改善を図る。</li> </ul>
	○教員による日常の施設利用について利用希望が重なったり、また生徒による備品の破損や紛失が報告されない状況がある。	施設・事務手続き、運用環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設利用について、年間行事計画と時間割を突合し、学期単位で施設予約を入れたうえで随時変更と調整を行う。</li> <li>・学校施設・備品の取り扱いについて、担任を通じて適宜注意喚起を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の施設利用に関するアンケートに対する肯定的な回答が80%以上である。</li> <li>・備品の破損や紛失の件数が年10件以内である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の施設利用に関するアンケートに対する肯定的な回答は66%であった。</li> <li>・備品の破損は4件、紛失はなかった。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設予約の入力について改善できた。急遽の対応は変更時点でのスケジュール入力について徹底する。</li> <li>・掲示物を工夫したり、担任からの注意喚起の指導により、生徒が備品の取扱いに留意し、引き続き破損を減少させていく。</li> </ul>
5 教職員のキャリア形成に関する取組	○業務が高度化、多様化、複雑化し、膨大な時間と労力が必要になっており、教職員が主体的に資質能力を高める機会と時間が確保できていないことが課題である。	教職員のパフォーマンスの最大化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修に出やすい業務システム整備、風土醸成を行い、教諭の視察や研修の機会を増やす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・双方向的な個別最適型の校内研修会の実施回数が10回以上である。</li> <li>・校外研修会や視察に参加する回数が前年度より10件以上増加である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研修を17回実施した。</li> <li>・昨年度と比べ、校外研修会への参加は143件で8件増加、視察への参加は14件で3件増加であった。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々なテーマの研修を講義形式ではなく双方向的なスタイルで学べるよう担当者の工夫が見られた。</li> <li>・研修、視察の促進により他校や他機関の取組や発表をより校内に還元していく。</li> </ul>
	○他のIB校や先進的な取り組みを行っている教育機関を教諭が視察し、学び合いや人脈形成の機会を得ることが必要とされている。	Teacher's agencyの醸成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な専門性や階層のワーキンググループを創設し、その成果を教科指導や教材開発など各種教育活動全般に反映させることで、教職員の本校への参画意識を向上させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の満足度に関するアンケートに対する肯定的な回答が80%以上である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の満足度に関するアンケートに対する肯定的な回答割合は89.1%であった。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・約77%の教職員が昨年度より時間外在校時間を縮減することができた。</li> <li>・研修や視察に関する情報が共有され、研鑽を積む環境が整っている。今後も継続して研修や成果の共有を推進する。</li> </ul>

学校運営協議会からの意見・要望・評価等

- ・社会とのつながりを意識した授業・課題や、新しい人や機会に出会う学びが生徒の興味を引き出すので、生徒がワクワクし、それが持続していくような学びを展開してもらいたい。
- ・大学進学等があると効率性が求められるが、多様性とは非効率であるものであることから、それらをどう両立し、また、その為の余力を創出するか検討を重ねてほしい。
- ・OB/OGが後輩指導に関わる仕組みや、教員の専門性が分かるシステムの導入を検討すべきである。

- ・交通安全指導、特にルール遵守の徹底を強化することが大切である。
- ・生徒の相互サポートや生徒会でのタスク負荷分散など自主的な問題解決能力は素晴らしい。その価値を再認識し、学校運営において評価・支援して欲しい。
- ・生徒が孤立しないよう、生徒同士の良好な関係構築を教員が見守り、サポートしてほしい。

- ・外部連携という言葉が目的化し、かつ大掛かりなものを想定してしまい生徒にとって心理的ハードルになっている。
- ・日常の中に外部連携の機会が溢れていることを意識させ、ワクワク感を損なわない緩やかなデータベース化が良い。
- ・卒業生の主体的な学びの成果を在校生にフィードバックしてほしい。
- ・外部での様々なトラブルに直面することが学びに繋がるので、教師が生徒の失敗を共に振り返り、次に活かす指導を行ってほしい。